文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 〔シ05〕

研究組織　二神葉子、塩谷純、江村知子、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、城野誠治、谷口毎子、安岡みのり、酒井かれん、横尾千穂（以上、文化財情報資料部）
広報委員（情報システム部会）：友田正彦（文化遺産国際協力センター長）　各部署情報システム部会員：安達佳弘、鈴木道夫（以上、研究支援推進部）、橘川英規（文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）、倉島玲央（保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）
広報委員（年報部会）：早川泰弘（副所長）　各部署年報部会員：井上裕介、三本松俊徳（以上、研究支援推進部）、小野真由美（文化財情報資料部）、前原恵美（無形文化遺産部）、佐藤嘉則（保存修復科学センター）、金井健（文化遺産国際協力センター）

目　　的　**高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化する調査・研究を行い、その成果を公開する。また、東京文化財研究所で行われる調査研究に関する情報や、国内外の文化財に関する多様な情報について分析し、それらを文化財保護に対して活用するための調査研究を行う。さらに、それらの情報の効果的な公開手法に関する調査研究を行うとともに、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。**

成　　果

1．デジタル画像の形成方法の研究開発

ア）運営費交付金や外部資金による他プロジェクトと連携し、奈良国立博物館所蔵の仏画、黒田記念館所蔵黒田清輝作品のうち油彩画、首里城火災による被災文化財などの文化財の光学的調査、記録作成を実施し、一部は報告書を編纂した。また、成果を論文等で発表した。

イ）『ものの記憶－読み解き・伝え・遺す－』を2021（令和3）年6月30日付、『国宝 絹本着色春日権現験記巻十一・巻十二　光学調査報告書』を2022（令和4）年3月15日付で刊行した。

ウ）沖縄県立博物館・美術館と共同で、同館所蔵の仲座久雄撮影ガラス乾板及び関連調査を行うとともに、ガラス乾板の画像のデジタル化に関する技術開発を行った。

2．文化財情報に関する調査研究

ア）文化財情報の適切な発信に関する調査研究を進め、学会や論文を通じて発表した。

イ）展示収蔵施設の学芸員、自治体の担当者などの文化財の実務家を対象に、9月21日に「文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」」を開催した。

3．東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

ア）研究情報の発信の一環としてウェブサイトを運用し、ウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、ソーシャルメディアを通じて、当研究所のウェブサイト更新情報、及び新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国際機関を中心とした取組みに関する情報を発信した。

イ）2021（令和3）年6月30日付で『東京文化財研究所年報2020』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。

ウ）研究成果紹介のためのパネル展示をエントランスロビーで行った。令和3年度は無形文化遺産部による「記録で守り伝える無形文化遺産」を展示した。

4．調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

ア）各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と連携してセキュリティ水準の維持向上に努めた。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携し行っている。

イ）従来、個別の物理サーバで運用されていたウェブサーバ等を仮想化基盤上に集約し、バックアップサーバの導入を行うなどネットワークの安定運用に努めた。また、テレワーク環境整備の一環としてウイルス対策ソフトをクラウド化した。

論　文

- 城野誠治：「ものの記憶　－記録を遺し伝える－」『ものの記憶－読み解き・伝え・遺す－』 pp. 108-133　21.6

ほか4件

発　表

- 二神葉子：「文化財の記録作成の意義」 文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」 21.9.21

ほか1件

刊行物

- 『ものの記憶－読み解き・伝え・遺す－』21.6
- 『春日権現験記絵巻十一・巻十二　光学調査報告書』22.3

ウェブサイトアクセスランキング（令和３年度　上位10位まで）

1	ガラス乾板データベース	6	『日本美術年鑑』所載美術界年史（彙報）
2	東京文化財研究所トップ	7	年紀資料集成
3	書画家人名データベース	8	黒田清輝日記（日付別）
4	『日本美術年鑑』所載物故者記事	9	異体字リスト
5	『美術画報』所載図版データベース	10	写真原板データベース（4×5カラー）

ウェブサイトの主な更新履歴（定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く）

年 月 日	更新内容	関係部局
21. 4 . 6	『日本の芸能を支える技Ⅶ　箏　国井久吉』刊行	無形文化遺産部
21. 4 .14	『無形文化財の保存・継承に関する調査研究プロジェクト報告書「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響」をめぐる課題』公開	無形文化遺産部
21. 4 .14	『及川尊雄収集 紙媒体資料』公開	無形文化遺産部
21. 4 .14	『【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウィルス フォーラム１「伝統芸能と新型コロナウィルス」報告書』	無形文化遺産部
21. 4 .16	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技　20　内部造作の保存と修復』公開	保存科学研究センター
21. 5 .11	『「保存と活用のための展示環境」に関する研究会－照明と色・見えの関係－（令和３年３月４日（木）開催）』の動画公開	保存科学研究センター
21. 6 . 4	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書　絹織製作技術』公開	無形文化遺産部
21. 6 .22	文化財修復技術者のための科学知識基礎研修 参加者募集	保存科学研究センター
21. 6 .24	無形文化遺産の伝承に関する研究会Ⅳ「型紙と型染」開催	無形文化遺産部
21. 7 .28	「琵琶製作の記録 石田克佳」（映像記録）公開	無形文化遺産部
21. 8 .31	第14回公開学術講座「日本の伝統的な管楽器と竹材」公開	無形文化遺産部
21. 9 .30	第55回オープンレクチャー　かたちを見る、かたちを読む 開催	文化財情報資料部
21.11.30	「Art news articles」（「美術界年史（彙報）」英訳）公開	文化財情報資料部
21.12.28	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム３「伝統芸能と新型コロナウイルス－Good Practiceとは何か－」公開	無形文化遺産部
22. 1 .17	研究会「考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産」開催	文化遺産国際協力センター
22. 2 . 1	浅田正徹氏採譜楽譜（通称「浅田譜」）原稿の所蔵・デジタル化進捗状況一覧 公開	無形文化遺産部
22. 3 . 1	「及川尊雄収集紙媒体資料データベース」公開	無形文化遺産部

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充〔シ06〕

研究組織　江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、吉田暁子、小林達朗、小野真由美、城野誠治、寺﨑直子、尾野田純衣、大前美由希、田村彩子、阿部朋絵、鈴木良太、藤井糸子（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子、永崎研宣、片山まび、川瀬由照（以上、客員研究員）、久保田裕道（無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務）、早川典子（保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務）、西和彦（文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務）

目　　的　当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成　　果

1．全所的な文化財情報の発信：アーカイブWGを例年通り4回(4月21日、9月27日、12月23日、3月23日）開催し、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を推進するための協議を行った。

2．当研究所が所蔵する昭和30年代の文化財調査写真を利用し、現代の画像技術を応用して、現在損傷を受けてしまっている、与謝蕪村筆「寒山拾得図襖絵」(重要文化財）の復原を、所蔵者の妙法寺（香川県丸亀市）と共同研究として開始した。現地調査撮影を行い、その成果の一部を口頭にて発表した。

3．売立目録デジタルアーカイブの改良：元年度より資料閲覧室にて公開しているデジタルアーカイブの校正作業を進め、より正確なデータ提供に努めた。

4．通常は資料閲覧室を週に3回公開してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年度に引き続き事前予約制とし、週1回(5月は臨時休室、11月からは週2回）開室した。開室日・利用者数は減少したが、デジタル資料のオープンアクセス化の増加や、インターネット公開のデータベースの拡充、遠隔複写サービスなどを積極的に行い、研究支援を実践した。

資料閲覧室事業の運営

1．年度内資料受け入れ数
和漢書947件 洋書138件、展覧会図録・報告書等849件、雑誌2,465件（合計4,399件）

2．年度内閲覧室利用状況
公開日総数69日・年間利用者合計570人

発　表

- 安永拓世：「香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」－画像資料を活用した復原的研究－」第55回オープンレクチャー　東京文化財研究所　21.11.5

報　告

- 安永拓世：「東京文化財研究所の写真資料から浮かび上がる与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」」『Tobunken News』76 21.12

妙法寺での蕪村作品の調査

感染防止対策を行って開室している資料閲覧室

令和３年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

研究組織 小林達朗、小野真由美、塩谷純、二神葉子、小林公治、江村知子、橘川英規、安永拓世、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、黒﨑夏央（以上、文化財情報資料部）

目　　的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

成　　果

1．2021（令和3）年11月5日、専門家はもとより広く一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」を開催した。研究所内部より２名の講演を行った。
それぞれの講演テーマは次の通りである。
- 小林達朗（東京文化財研究所文化財情報資料部 日本東洋美術史研究室長）
「皆金色阿弥陀絵像の出現とその意味－転換期の時代思潮の表象」
- 安永拓世（東京文化財研究所文化財情報資料部 主任研究員）
「香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」－画像資料を活用した復原的研究－」

2．外部からの聴講者は新型コロナウイルス感染症予防に鑑み、抽選制とし、35名の参加を得た。参加者からのアンケート結果では、参加者の85パーセントから「満足した」「おおむね満足した」との回答を得ることができた。

第55回オープンレクチャーの様子

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化〔ム03〕

研究組織　石村智、鎌田紗弓、牛村仁美、金昭賢（以上、無形文化遺産部）、飯島満（特任研究員）

目　　的　無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成　　果

1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8、DVCを中心に媒体変換を行った。
2. 音声記録のデジタル化は、令和2年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また、民謡のオープンリールテープ録音についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープのうち、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
4. 写真資料に関しては、石井雅子撮影歌舞伎舞台写真のデジタル化されたものの整理を行い、その一覧表を『無形文化遺産研究報告』第16号で公開した。
5. 無形文化遺産関連の音声映像資料155点（作成DVD2点・作成BD153点）を所蔵資料として新たに登録した。

発　表

- 石村智：「資料紹介：石井雅子撮影歌舞伎舞台写真デジタルデータ一覧」『無形文化遺産研究報告』16　pp.147-157　22.3

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

「文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」」(④シ05の一部として実施)

文字や写真による文化財や収蔵品の記録作成（ドキュメンテーション）は、調査研究・保存活用のための基礎的なデータを取得する活動である。文化財保護法の改正に伴い、文化財の記録作成の重要性が増している。その一方で、今日主に行われているデジタル媒体での記録に関する技術的な情報は、十分に提供されているとは言いがたい。そこで、標記のセミナーを開催し、主に行政組織における記録作成及び画像圧縮の原理をテーマとした標記のセミナーを開催した。

日　時：2021（令和3）年9月21日（火）　13：00～17：30
会　場：東京文化財研究所　セミナー室・会議室
参加者：59名

プログラム：
二神葉子（東京文化財研究所）「文化財の記録作成の意義」
中野慎之（文化庁）「文化財保護と記録作成」
今泉祥子（千葉大学）「ディジタル画像圧縮の原理」

無形文化遺産部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第15回無形文化遺産部公開学術講座 (①ム01の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は、「樹木利用の文化－桜をつかう、桜で奏でる－」として、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みて無観客収録し、後日、東文研ウェブサイトで記録映像を公開した。本講座では、日本人に古来より親しまれてきた桜を起点に、樹木利用の視点から伝統芸能、民俗技術における樹木利用の現状と課題を共有し、解決の糸口を模索した。内容は、講演、報告のほか、桜の樹木で胴が作られている小鼓についての実演家インタビュー、小鼓組み立てのデモンストレーション、囃子演奏「水」で構成した。

会　　場：東京文化財研究所セミナー室と地下ロビー、及びリモートによる収録
主　　催：東京文化財研究所
開催形態：本講座は新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みて無観客収録とし、編集した記録映像を2022（令和4）年3月30日より東文研ウェブサイトにて期間限定配信（令和4年度、内容を補追した上で報告書刊行予定）。

プログラム：
【趣旨説明】前原恵美（東京文化財研究所）
【講演】川尻秀樹（岐阜県立森林文化アカデミー）「様々な樹木利用の現状と課題」
【報告】今石みぎわ（東京文化財研究所）「民俗世界における樹木利用－桜を中心に－」
前原恵美（東京文化財研究所）「無形文化財と桜」
【インタビュー】藤舎呂英（藤舎流囃子方）「小鼓という楽器の魅力」
聞き手：前原恵美（東京文化財研究所）
【小鼓組み立てのデモンストレーション】藤舎呂英
【演奏】「水」（作曲：藤舎呂英）
囃子：藤舎呂英、藤舎呂近（以上小鼓）
藤舎雪丸（大鼓）、藤舎英心（太鼓）
笛　：福原寛瑞
【座談会】「樹木利用の文化と無形の文化財」
川尻秀樹（岐阜県立森林文化アカデミー）
藤舎呂英（藤舎流囃子方）
今石みぎわ（東京文化財研究所）
前原恵美（東京文化財研究所）

保存科学研究センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第３回保存環境調査・管理に関する講習会 ― 空気清浄化のための化学物質吸着剤 ―

（②ホ02の一部として実施）

本講習会は、保存環境の調査、評価方法、また、環境改善や安全な保管のための資材・用具等に関して、高いレベルでの共通理解を得ることを目的としている。第１・２回は文化財活用センター主催で開催されたが、第３回は同センターと東京文化財研究所が共同で開催した。テーマは「化学物質吸着剤」で、適切な化学物質吸着剤の選択と効果的な使用に不可欠な、吸着現象、吸着剤の原理や構造、吸着効率に関わる環境要因等への理解を深めるために、これらについて科学的見地から解説を行った。

日　時：2022（令和４）年１月31日（月）　13:30 ～ 16:00
会　場：東京文化財研究所　会議室
主　催：東京文化財研究所、文化財活用センター
参加者：30名

講演者：
吉田直人（文化財活用センター）「展示・収蔵空間における空気環境の問題と現状について」
中平卓矢（ピュアテック株式会社）「吸着現象と化学物質吸着剤の科学」

保存科学研究センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財修復技術者のための科学知識基礎研修

（②ホ05の一部として実施）

近年、文化財の保存修復に関する科学的研究が大きく進み、様々な知見が得られている、一方で、その知見を読み解き、現場で活用する力も文化財修復の上で必要とされてきている現状がある。
本研修では、文化財修復に必要とされる科学の基礎的な知識についての普及を目的とし、最新の研究成果を盛り込みつつ、文化財修復現場で直接必要となる情報を講義した。

日　時：2021（令和３）年９月29日（水）～10月１日（金）
会　場：東京文化財研究所　会議室
参加者：15名

１．科学知識基礎１、２　早川典子
２．溶液と接着について　早川典子
３．伝統接着剤１（糊、フノリ）　早川典子
４．伝統接着剤２（漆・膠等）　早川典子
５．紙の科学　加藤雅人
６．実験器具・薬品の取り扱い　倉島玲央
７．生物対策　佐藤嘉則

文化遺産国際協力センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

令和３年度世界遺産研究協議会　『整備』をどう説明するか

（③コ01の一部として実施）

令和２年度から続く第二部として、我が国の文化財における「整備」を国際的観点から俯瞰し、これを対外的にどのように説明するかというテーマに関して研究協議会を実施した。開催形態は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑みオンライン開催とした。また、内容自体が翻訳に関わるものであることから、同時あるいは逐次通訳では十分に意図が伝わらない可能性があると考えられたため、日本語字幕を付すかたちで申込者に限定した動画配信とした。

日　時：セッション１：2021（令和３）年８月30日（月）～ 10月１日（金）　公開
　　セッション２：2022（令和４）年１月14日（金）～２月25日（金）　公開
会　場：動画配信
参加者：270名

内　容：
セッション１【事例報告】
　高田和徳（御所野縄文博物館）「変化する遺跡公園　―実験・検証による整備とその活用―」
　吉岡泰英（元福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）「『史跡公園』を目指した一乗谷の史跡整備」
　Douglas Comer（Cultural Site Research and Management）"World Heritage Authenticity and SEIBI"
　Duncan McCallum（Historic England）"The approach to reconstruction at nationally important historic sites in England"
セッション２【討論】
　Douglas Comer、市原富士男（文化庁）、稲葉信子（筑波大学）、Richard Mackay（Mackay Strategic Pty. Ltd.）、Duncan McCallum、友田正彦（東京文化財研究所）、西和彦（東京文化財研究所）、松浦一之介（東京文化財研究所）

文化遺産国際協力センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産

（③コ02の一部として実施）

文明揺籃の地であるユーラシア大陸南西部には多くの考古遺跡が存在し、欧米を中心とした調査隊が19世紀から発掘調査を行ってきた。同地域に対しては日本も同様に調査研究の膨大な蓄積があり、さらに近年では、遺跡を有する国の研究者が主体となった調査も盛んに行われるようになっている。中でも文化遺産保護の熱心な取り組みがみられるイスラエルを対象に、同国の実務者より国立公園として進められている史跡整備の現状について、また日本国内の研究者による同国の考古学及び関連分野の研究についての講演を行うとともに「考古学と国際貢献」をテーマとした講演者によるパネルディスカッションを行った。

日　時：2022（令和４）年２月20日（日）14:00 ～ 17:00
会　場：ウェビナー
　　使用言語　日本語・英語（同時通訳）
参加者：76名

プログラム：
趣旨説明　金井健（東京文化財研究所）
講演
　ゼエヴ・マルガリート（イスラエル国立公園局保存開発部長）「イスラエル国立公園における考古遺跡の管理」
　ドロール・ベン＝ヨセフ（イスラエル国立公園局北部地区担当官）「ローマ時代初期のガリラヤ地方ー考古学的視点からー」
　間舎裕生（東京文化財研究所）「日本の調査隊によるイスラエルの考古学調査の歴史」
　岡田真弓（北海道大学観光学高等研究センター准教授）「イスラエルにおける史跡整備と国立公園制度の役割」
　長谷川修一（立教大学文学部キリスト教学科教授）「イスラエルにおける遺跡保存と活用の課題ーテル・レヘシュの例からー」
パネルディスカッション
　モデレーター　長谷川修一
　パネリスト　ゼエヴ・マルガリート、ドロール・ベン＝ヨセフ、岡田真弓、間舎裕生

刊行物：『考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産　研究会記録』東京文化財研究所　22.3

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

総合研究会（④シ）

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和３年度は下記のスケジュールで開催した。

- 第1回　2021（令和3）年6月1日（火）
  建石徹（保存科学研究センター、文化財防災センター）「文化財防災センターの現状と展開」
- 第2回　2021（令和3）年9月7日（火）
  芳賀文絵（保存科学研究センター）「被災文化財の保存と活用　ー東北歴史博物館における文化財保存の取り組みー」
- 第3回　2021（令和3）年10月5日（火）
  米沢玲（文化財情報資料部）「光明寺所蔵の羅漢図について ー光学調査とアーカイブの活用事例ー」
- 第4回　2021（令和3）年11月2日（火）
  五木田まきは（文化遺産国際協力センター）「マヤ地域の文化遺産と地域社会」
- 第5回　2022（令和4）年2月1日（火）
  後藤知美（無形文化遺産部、文化財防災センター）「地域社会に残された水害の記憶 ー水害常襲地・埼玉県の事例からー」

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財情報資料部研究会 (④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。2021（令和4）年度の開催内容は下記の通り（肩書は発表時のもの）。

4月27日（火）　梅沢恵（神奈川県立金沢文庫）「「辟邪絵」の主題についての復元的考察」
5月25日（火）　江村知子（文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長）「新出の住吉廣行筆「酒呑童子絵巻」（ライプツィヒ民族学博物館蔵）について」
6月29日（火）　小山田智寛（文化財情報資料部研究員）「東京文化財研究所の文化財データベースシステムの開発と運用について」
7月16日（金）　小林公治（文化財情報資料部広領域研究室長）「近現代日本における「南蛮漆器」の出現と変容ーその言説をめぐってー」
コメンテーター：小池富雄（静嘉堂文庫美術館）、日高薫（国立歴史民俗博物館）、山崎剛（金沢美術工芸大学）
9月24日（金）　中村茉貴（東京経済大学図書館史料室臨時職員）「「創造美育協会」の活動記録にみる戦後日本の美術教育ー島﨑清海資料を手掛かりに」
11月30日（火）　二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）「世界遺産条約の履行に関する最近の国内外の動向」
1月25日（火）　米沢玲（文化財情報資料部研究員）「モントリオール美術館所蔵熊野曼荼羅図について」
山本聡美（早稲田大学文学部教授）「中世六道絵と文学・唱導 中世六道絵における阿修羅図像の成立」
阿部美香（名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センター共同研究員）「六道釈から読み解く聖衆来迎寺本六道絵」
2月24日（木）　吉田暁子（文化財情報資料部研究員）「岸田劉生による「手」という図像ー静物画を中心にー」
コメンテーター：田中淳（大川美術館）
3月17日（木）　木内真由美、古家満葉（長野県立美術館）「生誕100年松澤宥展：美術館による調査研究から展覧会開催まで」
井上絵美子（ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ校）「松澤宥とラテン・アメリカ美術の交流についてーCAyC（Centro de Arte y Comunicación / 芸術とコミュニケーションのセンター）資料を中心に」
橘川英規（文化財情報資料部主任研究員）「松澤宥によるアーカイブ・プロジェクトData Center for Contemporary Art（DCCA）について」

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

東文研　総合検索 （④シ05の一部として実施）

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、29件のデータベース、約172万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。
www.tobunken.go.jp/archives/

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

研究資料データベース （④シ05の一部として実施）

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、24件のデータベース、10万件余りのデータを公開しており、全てのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研　総合検索」からの横断検索にも対応している。
www.tobunken.go.jp/materials/

無形文化遺産部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

インターネット公開
及川尊雄旧蔵 紙媒体資料目録データベース （①ム01の一部として実施）

本目録は、当研究所に寄附された、日本の伝統楽器や関連資料の蒐集家・及川尊雄（おいかわたかお）氏（1942-2018）旧蔵紙媒体資料（2,208点）のWebデータベースである。先の『及川尊雄収集 紙媒体資料目録』（2021年3月、当研究所無形文化遺産部）刊行後に見つかった資料を加えた上で、当研究所に寄附された資料に絞り込んで、ひとまとまりの資料として捉えた方がよいメモ類などを再整理した。併せて、資料の基本情報に内容に関連するキーワードを加え、より幅広い研究活用に供するWebデータベースとして公開した。
www.tobunken.go.jp/materials/oikawa

無形文化遺産部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

いんたんじぶる （①ム02の一部として実施）

無形文化遺産の情報収集・情報発信を目的として作成した一般向けサイトで、改修を行った。「コレクション欄」の「動画アーカイブ」「ブックス」のページから無形文化遺産関連動画、関連PDFへのアクセスが可能。「無形文化遺産総合データベース」への導入的役割を果たすとともに、伝承者と研究者や関係者とのネットワーク構築を目指す。

無形文化遺産部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

無形文化遺産総合データベース （①ム01の一部として実施）

文化財防災センターで作成する文化財データベース（非公開）に連動した形で、無形文化遺産に関するデータのみ、公開用データベースとして管理・運営するもの。全国都道府県の協力を得て、情報の確認を行っている。また、それに連動した映像アーカイブも管理。閲覧のための映像ライブラリーも構築中。

無形文化遺産部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

琵琶製作の記録（短編）石田克佳
琵琶製作の記録（長編）石田克佳
大鼓の革製作の記録（短編）畑元 徹 （①ム01の一部として実施）

無形文化遺産部では、文化財保存のための技術について調査、記録を継続的に実施し、その一環として映像記録の撮影・編集の上、許諾の得られた映像を東文研ウェブサイトより公開している。今年度は「琵琶製作の記録」（短編及び長編）を2021（令和3）年7月28日より、「大鼓の革製作の記録」（短編）を2022（令和4）年3月31日より公開した。

大鼓の革を縫う畑元徹氏